

解答プリント「中学社会・歴史的分野」

■発展プリント

6 江戸幕府の成立と鎖国

【評価の観点】㊦：思考・判断・表現 ㊧：技能 ㊨：知識・理解

解答例	解説
<p>㊦ (1) 石高は大きい江戸から遠く離れた場所に配置された。(25字)</p> <p>㊧ (2) 武家諸法度</p> <p>㊦ (3) 徳川家光</p>	<p>㊦ (1) 石高が特に大きいのは仙台の伊達家 56 万石、金沢の前田家 103 万石、熊本の細川家 54 万石、鹿児島島の島津家 73 万石で、この 4 家はいずれも関ヶ原の戦い前後に徳川家に従った外様大名である。また、この 4 家と江戸の間には、有力な親藩・譜代大名が配置されていることも読み取れる。特に、関東・東海・近畿の重要な場所には、徳川家と関係の深い大名が配置された。</p> <p>(2) 資料は 1615 年 4 月に大阪夏の陣で豊臣家がほろびた直後の、同年 7 月に出された武家諸法度の一部である。また、同年 9 月には、天皇・公家の行動を制限し、朝廷が政治に関与することを禁じた 17 か条からなる、禁中並公家諸法度も出されている。</p> <p>(3) 条文は、1635 年に 3 代将軍徳川家光が武家諸法度に加えた、参勤交代を制度化したものである。参勤交代は大名の犯行を防ぎ、経済力を弱めるための制度で、大名の妻子は人質として江戸でくらすこと、大名は 1 年ごとに領地と江戸に交替で住むこと、などを義務づけた。これにより、大名、特に遠隔地に配置された大名は、江戸での生活、大名行列などに多大な費用がかかることになった。</p>
<p>㊦ (1) ウ→イ→エ→ア</p> <p>㊨ (2) ① 豊臣秀吉</p> <p>㊧ ② 対馬藩</p>	<p>㊦ (1) 江戸幕府 3 代将軍の徳川家光は、領主への忠義よりも神への信仰を重んじるキリスト教の広まりを恐れ、日本人の海外渡航を全面的に禁止するとともに、海外居住者の帰国も禁止した。これにより、朱印船貿易が絶えることとなった(ウ, 1635 年)。キリスト教徒への迫害が進むと、思い年貢の取り立てに対する反発も加わり、島原と天草で天草四郎を大将とする一揆がおこった。一揆勢は原城に立てこもって幕府軍と戦ったが、半年後にほろぼされた(イ, 1637 年)。日本人に対するこれらの規制と同時に、外国人に対して幕府は、ポルトガル船の来航を禁止した(エ, 1639 年)。そして、平戸に設置されていたオランダ商館は長崎の出島に移され、オランダと中国のみが貿易を許されことになり、鎖国が完成した(ア, 1641 年)。</p> <p>(2) ① 豊臣秀吉は 1592 年、1597 年の二度にわたって朝鮮を侵略している。</p> <p>② 朝鮮と日本の国交を仲立ちした対馬藩は、鎖国期間中も朝鮮と唯一貿易を許された。</p>